

2013年3月期 期末 決算報告

2013年5月7日
株式会社 **クレスコ**
経営企画室

1.1. 決算のトピックス

連結

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 190億31百万円 (前年同期比 10.2%増)
- ⊕ 営業利益 … 12億42百万円 (前年同期比 20.5%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を2億86百万円上回り、72億73百万円(前年同期比4.1%増)
	公共・サービス分野	前年同期を24百万円下回り、45億53百万円(前年同期比0.5%減)
	流通・その他の分野	前年同期を10億38百万円上回り、37億71百万円(前年同期比38.0%増)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を2億71百万円上回り、10億52百万円(前年同期比34.8%増)
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を4億22百万円下回り、8億13百万円(前年同期比34.2%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を6億42百万円上回り、14億74百万円(前年同期比77.2%増)
商品・製品販売		前年同期を下回り、93百万円(前年同期比25.3%減)

▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 … 142億50百万円 (前期末比18億37百万円増)
- ⊕ 自己資本比率 … 59.6% (前期末 61.6%)

1.2. 通期の振り返り

単体

全般傾向

- ◆ **ビジネス向けのソフトウェア開発事業**
 - ・下半期以降、全般的に受注状況が改善
- ◆ **組込型ソフトウェア開発事業**
 - ・主要顧客(メーカー)のポートフォリオが大きく変化し、受注が減少
 - ・新規顧客の開拓や人員の大幅シフト、再教育で、リカバリーを実施
- ◆ **新クラウドサービスの立ち上げ**
 - ・アマゾンウェブサービス(AWS)を利用したサービスブランド「クレアージュ」をリリース
- ◆ **「品質マネジメント」の徹底**
 - ・開発プロジェクト収支改善とプロジェクトマネジメント力の強化

課題






組込型ソフトウェア開発事業の再構築

クラウド事業のサービス商材開発

人材(社員・ビジネスパートナー)の確保






1.3. 通期の振り返り①

子会社

 クレスコ・ イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none">◆ ERP (SAP/R3) の導入コンサルティングが堅調に推移◆ コンサルティングビジネスは、引き合いが増加◆ 各種ソリューションの拡販や人材採用が課題
 ワイヤレステクノロジー	<ul style="list-style-type: none">◆ 製品販売の受注が低迷、特定顧客への依存度が高く、受注が不安定に◆ 要素技術 (Bluetooth) の試作品開発案件が減少、リカバリーできず◆ 組込みモジュールの差別化やハイブリッドセンサの活用提案が課題
 クレスコ・ コミュニケーションズ	<ul style="list-style-type: none">◆ 収支が悪化していたマーケティングソリューション事業(沖縄センター)を譲渡後、代替する新事業の立ち上げが遅延◆ 製造業向け出荷検品システムやスマートデバイスを活用したSI提案に活路
 クレスコ・ アイディー	<ul style="list-style-type: none">◆ 主力のセキュリティロッカーの販売は、クレスコグループのクロス営業により、堅調に推移◆ RFIDタグや関連製品については専門商社として事業を展開◆ クレスコ北陸と共同で、自社製品の開発・販売体制を構築
 アイオス	<ul style="list-style-type: none">◆ 主力の受託ソフトウェア開発が順調に推移し、稼働率も順調に推移◆ 特にマイグレーション案件が増加し、業績に貢献◆ プロジェクトの採算管理を強化し、「利益の出る体質」への改善が課題

1.3. 通期の振り返り②

子会社

 <p>クレスコ九州</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ 地場企業の受注は、堅調に推移◆ クレスコグループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発の実現、人材採用、ビジネスパートナー拡大が課題
 <p>クレスコ北陸</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ 独自のITソリューションを武器に、地場企業の深耕に注力し、受注拡大◆ クレスコグループの連携による販売シナジーと営業力の強化が課題
 <p>科礼斯軟件(上海)</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ 中国進出企業の支援ビジネスを事業の柱に、営業活動を実施◆ ビジネス系の案件を受注、事業基盤の構築には案件獲得が課題◆ 上海地場のIT関連企業との開発体制拡充に注力
 <p>シースリー</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ 日立グループ関連の案件を中心に稼働が安定◆ 特に鉄道、ダム、電力関連の制御系システムに強み◆ OS(オペレーティングシステム)関連のシステム開発で差別化を図る
 <p>クリエイティブジャパン</p>	<p>【注】 2013年4月1日に子会社に加わりました。 2014年3月期第1四半期より決算報告いたします。</p>

【注】 「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。

【注】 2012年12月14日に「株式会社シースリー」を子会社化いたしました。

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 期末 〈実績〉	2013年3月期 期末 〈実績〉	前年 同期比	2013年3月期 通期 〈2013/4/25公表〉
売上高	17,271	19,031	110.2%	19,030
売上総利益	2,800 (16.2%)	3,129 (16.4%)	111.8%	— (—)
営業利益	1,030 (6.0%)	1,242 (6.5%)	120.5%	1,240 (6.5%)
経常利益	1,174 (6.8%)	1,409 (7.4%)	120.1%	1,400 (7.4%)
当期純利益	444 (2.6%)	764 (4.0%)	171.8%	760 (4.0%)
EPS 円/株	40.46	70.80	—	70.41

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

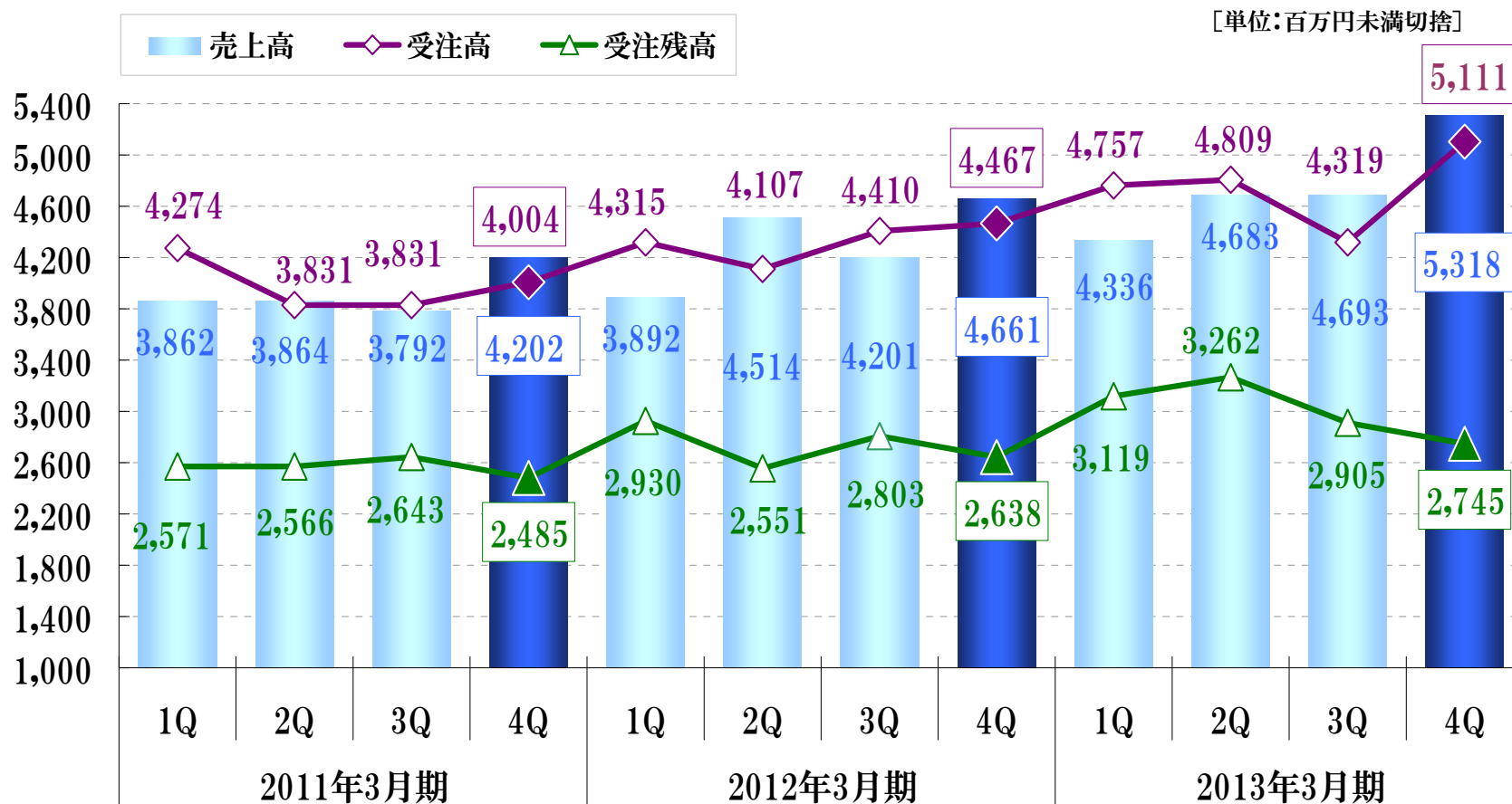
2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

大区分	セグメント 小区分	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	増減	増減率
ソフトウェア	金融関連	6,987	7,273	286	4.1%
	公共・サービス	4,577	4,553	▲24	▲0.5%
	流通・その他	2,732	3,771	1,038	38.0%
	計	14,297	15,597	1,300	9.1%
組込型 ソフトウェア	通信システム	780	1,052	271	34.8%
	カーエレクトロニクス	1,235	813	▲422	▲34.2%
	その他	832	1,474	642	77.2%
	計	2,848	3,340	491	17.3%
商品・製品販売		125	93	▲31	▲25.3%
全計		17,271	19,031	1,760	10.2%

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結



2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 期末 ＜実績＞	2013年3月期 期末 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 通期 ＜2013/4/25公表＞
売上高	12,251	12,518	102.2%	12,510
売上総利益	1,964 (16.0%)	2,068 (16.5%)	105.3%	— (—)
営業利益	906 (7.4%)	970 (7.8%)	107.2%	970 (7.8%)
経常利益	1,079 (8.8%)	1,115 (8.9%)	103.3%	1,110 (8.9%)
当期純利益	410 (3.3%)	665 (5.3%)	162.3%	660 (5.3%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末
売上高	1,351	1,439	154	102	145	136
売上総利益	290	309	32	2	37	45
営業利益	116	124	9	▲19	▲14	0
経常利益	118	132	9	▲19	▲13	0
当期純利益	62	76	6	▲12	▲8	12
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	90.0%

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	クレスコ・アイディー [資本金: 100]		アイオス [資本金: 313]		クレスコ九州 [資本金: 50]	
	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末
売上高	25	54	3,274	3,794	169	171
売上総利益	0	11	447	489	22	19
営業利益	▲ 45	▲ 18	80	161	▲ 2	▲ 4
経常利益	▲ 45	▲ 18	89	171	▲ 1	▲ 4
当期純利益	▲ 48	▲ 20	33	100	▲ 0	▲ 3
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

2.5. 損益計算書 [要約]③

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ北陸 [資本金: 50]		 科礼斯軟件(上海) [資本金: 70]		 シースリー [資本金: 20]	
	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末	2012年3月期 期末	2013年3月期 期末
売上高	-	577	-	5	-	320
売上総利益	-	116	-	▲2	-	70
営業利益	-	38	-	▲17	-	29
経常利益	-	39	-	▲30	-	30
当期純利益	-	1	-	▲30	-	16
持分比率	-	100.0%	-	100.0%	-	70.0%

【注】 2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。

【注】 2012年12月14日に「シースリー」を子会社化いたしました。

【注】 2013年4月1日に子会社化した「クリエイティブジャパン」は、2014年3月期第1四半期より決算報告いたします。

|3.1. 基本方針

次世代クレスコの創生
推進元年

3.2. 重点施策

- ▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進
原点に回帰し、企業グループ全体の「品質マネジメント力」の底上げを実現する。
- ▶ サービス事業のビジネスモデル強化
オリジナル製品（インテリジェントフォルダ、クレアージュ等）の**拡販戦略**実行。
- ▶ グループ経営基盤の拡大と営業拠点の広域化
M&Aによる「**複合IT企業化**」の推進と、**地方マーケット**への参入。
- ▶ 海外事業の推進
海外進出する企業を支援すべく、**現地法人**を設立。
- ▶ 技術研究所の設立
時代を読み、トレンドをつかみ、人を育成し、**ビジネスを生み出す**専門部門を設立。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

1 経営環境

当連結会計年度(平成24年4月1日～平成25年3月31日)の経営環境は、米国の財政問題、欧州経済の低迷、日中関係の悪化といった懸念がありながらも、東日本大震災の影響で大きく落ち込んだ前年度の反動や効率化投資による国内需要に牽引されて設備投資や雇用も回復基調となり、12月以降は安倍政権の経済政策が功を奏し、IT投資も徐々に勢いを増してまいりました。

2 今後の見通し

平成25年は金融緩和や緊急経済対策、円安による輸出数量の増加効果などが追い風となって、設備投資意欲は、緩やかながら回復傾向が継続すると考えております。また、下半期は、平成26年に予定されております消費税率引き上げを前に、投資計画の前倒しによる「駆け込み需要」も期待されます。このような経済見通しのもと、国内企業のIT投資は、マルチデバイス需要を背景に、スマートフォンやタブレットPCの普及が更に加速し、ソーシャルメディアやモビリティ分野、クラウド・サービス分野の急成長が見込まれます。また、「ビッグデータ」として注目されている企業内の膨大な情報を活用するビジネスインテリジェンス分野も有望視しております。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

3 重要なキーワード

「モビリティ」「クラウド」「ソーシャルネットワーク」「ビッグデータアナリティクス」といったキーワードに代表されるように、ITインフラストラクチャに関するテクノロジーはかつてない進化の時を迎えつつあります。当社企業グループといたしましては、事業の柱である受託ソフトウェア開発事業（ビジネス系ソフトウェア、組込型ソフトウェア）において、技術および品質の面から更なる強化を図るとともに、先進のテクノロジーを駆使し、企業の成長や事業機会を創出する顧客支援型（海外展開サポート含む）のソリューションサービスを充実させてまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。